

5月23日の
復館
授業再開17.
何卒よびよらぬこと。

5月23日の
復館
授業再開17.
何卒よびよらぬこと。



開館39年。名古屋のミニシアター

ドキュメンタリー映画

シネマスコール を解剖する。

コロナなんかぶっ飛ばせ

これはコロナ禍で翻弄される
ミニシアターの闘いの記録だ。

- 木全純治
- 坪井篤史
- 足立正生
- 入江悠
- 瀬戸慎吾
- 北條誠人
- ジュ・レ
- 井浦新
- 奥田瑛二
- 若松孝二
- 語り・韓英恵

映画監督 白石和彌

たとえ日本中が荒野になったとしても、シネマスコールは何度も立ち上がる。
"映画は死なない"のではない、観客がいる限り死なないのだ！
ゆげゆげ二度目のシネマスコール！

木全純治を知っているかな？

若松孝二監督が作ったシネマスコールの
支配人を39年も続けてきた男。木全は言う。
「カントクと比べたら、コロナなんかどうってことない！」

製作：メ〜テレ（名古屋テレビ放送） 制作総指揮：村瀬史郎 監督：菅原竜太 撮影：水野孝 編集：本地亜星 田中博昭
MA：犬飼小波 効果：河合亮介 音楽監督：村上祐美 音楽：松本薫 演奏：山田秀俊 大西章美 河野秀生 柳賢治 岡田恵里

配給：メ〜テレ シネマスコール 2022年/日本/カラー/ビスタ/5.1ch / 93分



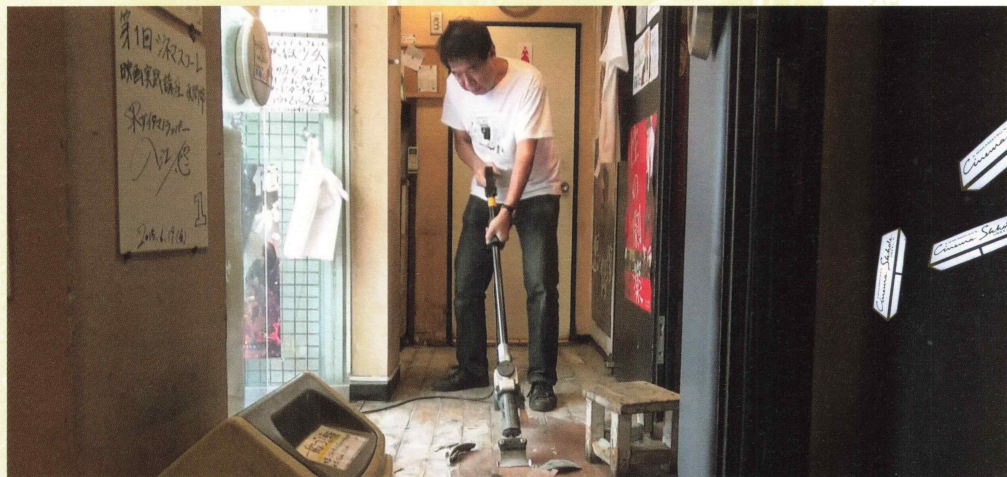
K.WAKAMATSU'S
Cinema Sekolah
しねますこーれ

開館39年。名古屋のミニシアター

新型コロナウイルスで世界が激変した2020年。名古屋にあるミニシアター「シネマスコール」にカメラが入った。休館を余儀なくされ、かつてないほどの苦境に追い込まれながらも、映画文化の多様性を守るため奮闘する木全純治支配人。この映画はそんな木全とシネマスコールを追ったドキュメンタリーである。

シネマスコールの座席数は51席。1983年に若松孝二監督が創立して以来、一日も休まず日本のインディーズ映画やアジアの知られざる名作を上映してきた。この小さな映画館から全国へ、世界へと羽ばたいていった映画人は数知れない。2年に及ぶ取材をもとに、ミニシアターが映画文化の発展に果たしてきた役割の大きさ、多様性が持つ意味を問いかけるのは、地元名古屋のテレビ局であるメ〜テレ（名古屋テレビ放送）。『シネマ狂想曲 名古屋映画館革命』（2017・樋口智彦監督）に続く、シネマスコールのドキュメンタリー第二弾となる。前作は「ギャラクシー賞」の入選作品に選出、本作も映画に先立って放送されたテレビ版が同賞奨励賞を受賞した。

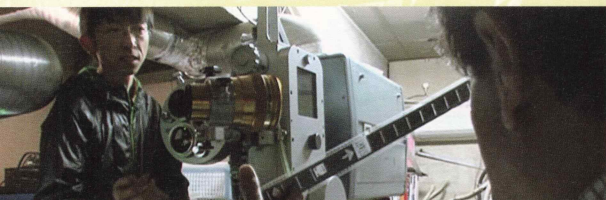
緊急事態宣言、休館、復館……
度重なる感染拡大の中、映画館は模索を続ける



映画は作っただけでは完成しない、
人に観てもらって初めて完成する

若松孝二監督の想いを木全は誰よりも強く受け継いでいる。営業再開しても、観客は戻ってこない。ここでミニシアターの火を消すわけにはいかない。しかし、追い打ちをかけるように、映画館の心臓部ともいえる映写機が故障。赤字が膨らむ中、坪井篤史副支配人の心は折れかけ、ついにブログに「退職を決意」と書き込む。不協和音の中、木全は言う。「カントクに比べたら、コロナなんかどうってことない」と。シネマスコールの運命やいかに。

この映画は全国のミニシアターへの応援歌だ



2022 7.2 (土) よりゆけゆけロードショー

特別鑑賞券発売中！ ¥1,400均一（鑑賞日の3日前から予約可。詳細は劇場HPまたはお電話にてご確認ください）
当日料金 ¥1,800 / 学生（大・専門・高）¥1,500 / WEB ¥1,500 / シニア ¥1,000

新宿駅東口階段下 甲州街道沿道コモショップ左入

新宿 K's cinema

03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com
各回入替・全席指定席

